

- Vuillemin, P. (1886) Sur les homologues des mousses. Bull. Soc. Sci. Nancy, Ser. II, 8: 41 (not seen, recited from Paton & Pearce 1957). Wan, C.-k. & S.-h. Lin (1974) A new species of *Diphyscium* from Taiwan. Hikobia 7: 21-24. — & — (1975) *Diphyscium rotundifolium* (Musci), a new species from Taiwan. Ann. Missouri Bot. Gard. 61: 526-529. Wijk, R. van der, W. D. Margadant & P. A. Florschütz (1962) Index Muscorum. Reg. Veget. 26: 1-525. —, — & — (1969) Ditto. Ibid. 65: -xii, 1-922.

\* \* \* \*

南四国の低山地（高知県：中村市，土佐山村工石山，室戸市，北川村矢筈谷；徳島県：徳島市八多町）からイクビゴケ属の一新種ミギワイクビゴケ（新称）を記載した。これまで知られている同属の種19種（内13種がアジアに，7種が日本に分布する）を標本や文献によって比較検討した結果，本種が未記載の種であることが判明した。なお本属の蘚は特異な形態の孢子体を生じるので他の属名の下に既に記載されている可能性は *Buxbaumia* 属を除いてほとんどない。本種は外見上，日本産のイクビゴケ属の種の中では，低山地で最も普通であるイクビゴケによく似ている。そのため，これまで本種の存在が見過ごされてきたようである。そのイクビゴケとは次の点で区別される。1）葉細胞に1個の高いパピラをもつ（イクビゴケではパピラは押しつぶされた格好となり，低い2～3個のこぶ状となる）。2）雌苞葉の葉身の肩にはシリアが出ない。3）雌苞葉の芒が平滑。4）生育環境が異なる（イクビゴケでは路傍などの土の上や，土の厚く堆積した岩上などで，比較的乾燥した環境に生育するが，本新種は湿度の高い溪流沿いの，土壌のごく薄く堆積したか，またはその堆積のない岩壁上に生育する）。

〔追記〕その後，本種は本州にも分布することが判ったので，産地を記録しておく。

Honshu. Wakayama Pref.: Takinohai - Komorigawa, Kozagawa-cho; 100 m alt., Aug. 13, 1972, H. Deguchi 10201.

○植物命名国際規約57条3項による学名の変更（原 寛）Hiroshi HARA: Some new combinations of the Asiatic plants based on Art. 57.3.

シドニーの第13回国際植物学会議の決定に基づいて改訂された命名規約の最新版(1983)を見ると，色々と変更が行われているが，その中で目立つものの一つは autonym (自動名)を強化する条項がいくつか入れられたことである。新しく挿入された57条3項によると，autonym はそれが自動的に作られるものになった同じ分類階級の同時に発表された他の名に対し優先権をもつことが明記されている。これによって日本植物の学名にも変更を要するものがかなりできて混乱を起すおそれもあるが止むをえない。

私の扱った学名についてもこの新条項によると、次のような組合せが正名とみなされる。

1) *Syringa reticulata* (Blume) Hara var. **amurensis** (Rupr.) Pringle in *Phytologia* 52: 285 (1983).

*Syringa amurensis* Rupr. in *Bull. Phys.-Math. Acad. Sci. St.-Pét.* 15: 371 (1857).

*Ligustrina amurensis* Rupr. var. *mandshurica* Maxim. in *Bull. Acad. Sci. St.-Pét.* 20: 432 (1875).

*Syringa reticulata* var. *mandshurica* (Maxim.) Hara in *Journ. Jap. Bot.* 17: 22 (1941); *Enum. Spermat. Jap.* 1: 127 (1949).

2) *Lonicera alpigena* L. subsp. *Glehnii* (Fr. Schm.) Hara var. **Watanabeana** (Makino) Hara, comb. nov.

*Lonicera Watanabeana* Makino in *Bot. Mag. Tokyo* 28: 128 (1914).

*L. Watanabeana* var. *viridissima* Nakai, *Tent. Capr. Jap.* 100 (1921).

*L. alpigena* var. *viridissima* (Nakai) Nakai ex Hara in *Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo Bot.* 6: 382 in *adnota* (1956); in *Ginkgoana* 5: 60 (1983), sub subsp. *Glehnii*.

3) *Lonicera Maximowiczii* Rupr. ex Maxim. var. **Okamotoana** (Ohwi) Hara, comb. nov.

*L. Okamotoana* Ohwi in *Journ. Jap. Bot.* 13: 340 (1937).

*L. Okamotoana* var. *latifolia* Ohwi, l. c. 341 (1937).

*L. Maximowiczii* var. *latifolia* (Ohwi) Hara in *Ginkgoana* 5: 71 (1983).

4) *Weigela decora* (Nakai) Nakai var. **amagiensis** (Nakai) Hara, comb. nov.

*W. amagiensis* Nakai in *Journ. Jap. Bot.* 12: 71 (1936).

*W. decora* var. *viridiflava* f. *amagiensis* (Nakai) Hara in *Journ. Jap. Bot.* 26: 277 (1951); in *Ginkgoana* 5: 151 (1983).

var. *amagiensis* f. *viridiflava* (Nakai) Hara, stat. et comb. nov.

*W. amagiensis* var. *viridiflava* Nakai, l. c. 73 (1936).

*W. decora* var. *viridiflava* (Nakai) Hara in *Journ. Jap. Bot.* 26: 277 (1951); in *Ginkgoana* 5: 150 (1983).

なおこの他に新組合せの必要はないが学名の取扱いが変る場合がかなりある。例えばアジア産カンボクをセイヨウカンボクの変種として扱う場合は *Viburnum Opulus* L. var. *Sargentii* (Koehne) Takeda が正名となり、ハイイヌツゲをイヌツゲの変種とした場合は *Ilex crenata* Thunb. var. *radicans* (Nakai) Ohwi が正名となる。

(東京大学 総合研究資料館植物部門)